



長野県看護大学学報



在宅看護実習が始まりました

近年の在宅ケアに対するニーズの高まりを背景に、H21年度改正カリキュラムにおいて定めた「在宅看護実習」が本年度始まりました（4年次1単位）。この実習では、在宅療養者とその家族、それを取りまく社会環境を理解し、療養者と家族の生活の質の保持・向上を目指した看護援助の方法および他職種と協働して生活を支援する方法を学ぶことを目的としています。在宅看護を実践している看護職の方々をはじめ関係機関の皆様のご理解とご協力を賜り、訪問看護ステーション・診療所・在宅療養児通園施設・養護学校において実習させていただきました。将来、在宅看護に向けた退院支援や在宅での看護実践を担うことができるよう、さらに内容を充実させたいと思います。



地域・在宅看護学分野講師 柄澤邦江

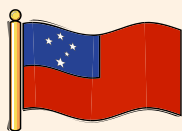
稲川由佳さん（看護学部4年生）

訪問看護ステーションの実習では、1軒30分～1時間と短い時間の訪問でしたが、訪問看護師が療養者のご家族の方とじっくり向き合える時間だと感じました。花田養護学校や信濃医療福祉センターでは、療養児とご家族が安心して生活していけるように、その子を尊重しつつ、持てる力を最大限に活かしたケアや、他職種との連携の重要性を学ぶことができました。

北原ゆみさん（看護学部4年生）

私は地域診療所での実習で、偶然にも領域別実習でお世話になった患者さんと再会しました。お話をすることで、疾病を持ちながら地域で生活することの大変さを改めて知りました。また、人々の生活に合わせた看護を行って在宅療養を支えている地域・在宅看護の重要性を感じました。病院での看護と地域生活での看護を結びつけて考えられる実習でした。

国際看護実習報告



伊藤光美さん（看護学部編入2年生）

サモアと言えば眩しい太陽に美しい海、そしてユーモアとパイリマ(サモアの地ビール)を愛する陽気な人々を思い出します。車で山間部を通れば子どもや村の人々が手を振ってくれ、こちらまで心が温かくなるとも素敵な国でした。昨年の国際看護実習履修生のマウア・イサイアとの再会も実現し、彼女たちの生まれ育った街で素敵な時間を過ごし、国境を越えた友情を育む事が出来ました。サモアは津波被災から4年の年月が過ぎようとしていますが、まだあちらこちらに津波の傷跡が残っています。しかし人々が自分たちの生活を着実に取り戻している姿に励まされ、学び多き実習となりました。

中村昌子さん（看護学部編入2年生）

日本よりも快適な気候で青い海とおいしい南国フルーツなど魅力たっぷりのサモアが私たちを温かく迎えてくれました。サモア人は底抜けに明るく、おもてなし精神を忘れない彼らに脱帽しました。実習では訪問看護や学校保健、予防接種など一人の病院勤務看護師の職務範囲が広いことに驚きました。住民の健康を守るために大きな体を揺らしながら真剣に仕事に取り組む姿は、心打たれる場面でもありました。25年度はサモア学生の受け入れ年です。ぜひ彼らと両国の看護について語り合ってください。

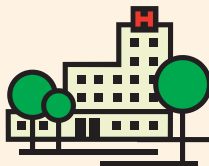


基礎看護実習Ⅰ報告



加藤あかねさん（看護学部1年生）

私達1年生は、6月に基礎看護実習に行ってきました。入学して2ヶ月の初めての实習ということで、とても緊張しました。そんな私たちにも、現場の方々はとても丁寧に指導していただきました。分からないことを質問すれば、忙しいなかでも、私たちが理解できるよう根拠だて、実際に手本を見せながら説明して下さいました。また、対象の方一人一人に合わせた声かけや対応がされており、人をケアする仕事についている方々は、人間としての優しさを持っているのだと感じ、自分もそうなれるよう努力したいと思いました。



小林凜太郎さん（看護学部1年生）

私は、昭和伊南総合病院と特別養護老人ホームのエーデルこまがねで実習をさせていただきました。初めての実習であり、患者さん、施設の方々とコミュニケーションをとりながら人との接し方を学びました。また看護師や施設の職員の方々の仕事も見せてもらいました。四日間の間で数人の方と接してきましたが、事前学習で学んだ事を実践したり、実習中に感じて工夫したりしたことから、人と接する時に大切な事や今までとは違った視点で接する事を学ぶことができ、自分自身変わることができたと思います。



新カリキュラム「基礎看護実習Ⅰ」は、看護の対象となる人々および人々が生活・療養する場を知り、看護の役割を体験的に学ぶとともに、今後の学習に対する動機づけを図る、という目的のもと、6月11日～15日まで駒ヶ根市近隣の病院及び高齢者福祉施設で行われました。入学して間もなく、学生にとってはかなり緊張する実習でしたが、終了後は、自分が日常的に人と接する時の態度や今後の学生生活における自己の課題を改めて意識する機会となったことが確認されました。

基礎看護学分野准教授 宮越幸代

平成24年度カリキュラム改正に関して

改正された保健師助産師看護師法により、保健師及び助産師の基礎教育における修業年限について、それぞれ、『6か月以上』から『1年以上』に延長されました。それを受け、実践力の強化に向けて教育内容の充実を図ることを目的に、保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正され、厚生労働省でとりまとめたカリキュラムの改正案について文部科学省においてもその適用に関する検討を行い、見解がとりまとめられました。本学では、これらを受けて様々な検討を行い、平成24年度からのカリキュラム改正においては、保健師教育は学部教育で必修とし、助産師教育は学部教育で選択としました。主な内容としては、1) 学習内容の精選をはかり、学生の主体的学習時間を確保する、2) 実習の充実を図るために各実習の単位を見直し配置を変更する等の改正を行いました。24年度入学生から適用されたこのカリキュラムについて今後評価をしていくことが必要です。

教務委員長 内田雅代



1年生授業紹介

生化学

生化学では、人体の成り立ちを分子レベルで学んでいきます。具体的には、タンパク質・糖質・脂質等の基本的な物質の構造や代謝、遺伝子発現の仕組み等を学習していきます。医療従事者として重要な知識であると同時に、やりこめば世界観も変わってきます。ただ理解の前提に、化学や生物のしっかりとした知識も必要で、最も看護学生さんに嫌われる教科の1つです。そこで、医療や看護学への関連も意識しながら授業を進めています。



生物・化学分野教授 太田克矢

人体の構造と機能演習

「人体の構造と機能演習」では、標本観察と実験により生体の仕組みの理解を深めます。ヒトと動物の器官や組織をマクロ（肉眼）とミクロ（光学顕微鏡）のレベルで観察し、さらに心肺機能と相互影響、食事による血糖の変化、浸透圧の血球への影響などの実験を行い、生命現象に関する基本的な考え方と器官・組織・細胞の構造と働きを理解します。対象や現象に直接触れることで生命の尊さを認識することも目的のひとつです。



基礎医学・疾病学分野教授 喬 炎

新任教員のご紹介

2012年7月より4名の教員が本学に着任致しました。各教員から一言いただきました。

人間基礎科学講座

基礎医学・疾病学分野 助手 王 英歌 これまで研究一筋で教育経験は少ないですが、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

基礎看護学講座

基礎看護学分野 助手 坂上玲子 山のふもとののどかな駒ヶ根で、おいしい空気に感動しています。

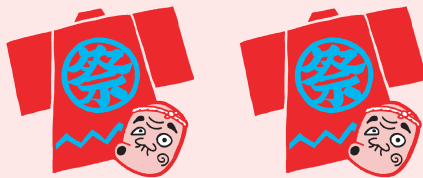
発達看護学講座

母性・助産看護学分野 助手 小川紀子 皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

広域看護学講座

精神看護学分野 教授 岡田 実 青森県出身です。駒ヶ根市のいい所、美味しいものを教えてください。

学生活動報告



第17回鈴風祭

感謝の気持ちを表すためにこの鈴風祭がありました。今回多くのお客さんが遊びに来てくださり、たくさんの笑顔を見て皆さんの笑い声を聞くことができ、少しでも恩返しのできたのではないかと考えています。鈴風祭を通して、私個人も支えられていることを実感し感謝の気持ちでいっぱいです。だからこそ、鈴風祭が終わった今、次は私自身が感謝の気持ちを伝え表していく番なのだと思っております。素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました！

松井優香さん(第17回鈴風祭実行委員長)



生協学生委員会夏祭り



生協学生委員会では、「夏を感じてもらいたい!」「前期授業のお疲れ様会をしたい!」というニーズのもと、8月6日に生協食堂をお借りして夏祭りを開催しました。今年も自治会と共同開催し、全組合員数のうちの約3分の1に参加していただきました。各サークルの発表や先生方の楽器演奏、生協学生委員会主催のビンゴ大会などを生協のパートさんに作っていただいた美味しいお料理を囲みながら楽しめたのではないかと思います。生協学生委員会では、夏祭りの他にもいろいろ企画を行っていますので、組合員である学生や先生方にもっと生協学生委員会や生協のことを知っていただけるよう皆で頑張っていきたいです。

日詰美都莉さん(生協学生委員長)



いなん100km 徒歩の旅

私は今年でいなん100km徒歩の旅に2回参加させて頂きました。このいなん100km徒歩の旅に参加させて頂く中で強く感じるの、「子ども達の生きる力」や「地域の方々とのつながり」でした。参加の機会を提供して頂いた駒ヶ根青年会議所の皆様だけでなく、子ども達やその親御さん方、いなん100km徒歩の旅に協力頂いた地域の方々すべてに感謝する気持ちを学ばせて頂きました。



沼田俊輝さん(看護学部2年生)





平成23年度卒業生あつまれ！企画を開催しました

卒業生・修了生キャリア形成支援部門は、本学の卒業生・修了生を対象に看護職としてのキャリア形成支援を目的に、今年度から活動しています。

昨年9月22日（土）に初めての活動として、卒後一年目の卒業生を対象にした「平成23年度卒業生 あつまれ！」企画を実施しました。同窓会の協力を得て参加を呼び掛けたところ、41名の卒業生が集うイベントとなり、全員の近況報告を簡単に行った後は、友達や教員との気軽なおしゃべりで楽しいひと時を過ごしました。

卒業生は皆しっかりと自分の足で立ち、社会人として専門家としての歩みを進めていました。実施後のアンケートでは、卒後に集まり情報交換できるこのような場を望む卒業生が多いことがうかがえました。来年度も同様の企画を実施していきたいと考えています。

卒業生・修了生キャリア形成支援部門 千葉真弓



サンフランシスコからの風 ー第6回ー

柿沼佑果さん

初めに見藤先生(初代長野県看護大学学長)が11月中旬にご逝去されました。見藤先生は日本の看護界の歴史を切り開き、偉大な影響を与えて来られました。在学中、卒業後も頂いたご指導が今の私に繋がっております。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、今回はアメリカの看護師の職種の違いについて書きたいと思います。在学中、見藤先生に看護師の地位の向上についてご指導頂いたことがあります。日本は准看護師(LVN)と正看護師(RN)の資格の違いが有るものの、業務上の違いは臨床では殆どありません。アメリカではLVNの殆どは個人クリニックや老人ホームなどで、RNの管理下の元で働きます。RNは学位以上を持っていないと総合病院・大学病院での病棟勤務は難しく、私の働くUCSF小児病院でも学位保持者以外の新卒者は就職を得ることができません。

病棟でのRNの役割は日本と同じく投薬、患者さんのケアが主です。大きく異なるのは投薬で処方範囲内でRNが患者さんのアセスメント、判断し投与することです。簡単な例をあげると鎮痛薬が一番分かりやすいでしょうが、医師が3-4種類の鎮痛薬を処方してあり、RNは患者さんの痛みの程度を判断し必要に応じて投薬量、時間、ルートなどを患者さんのニーズに応じて与えることができます。医師とは地位の差を感じたことがないほど、RNの視点、意見が患者さんのケアプランに大きく影響します。(地位というより役割の違いという感じです。)

RNの他には専門看護師(CNS)やナースプラクティショナー(NP)が活躍しています。当病棟には小児+皮膚CNSがいて、主任クラスが解決できない複雑なケアプランや皮膚に関することは助言を常時得ることができます。代表的なNPを挙げると、外科、臓器移植チームで外科医は手術を担当し、術後の薬処方や食事活動に関する指示は全てNPを通して行われます。また、糖尿病の教育や外来での処方の多くもNPが担っています。

日本でもCNS、認定看護師が増え、NPも法律を待たずに始まり、看護師の専門性が進んでいます。2015年には4人に1人の成人が老人を担い、少子化・医療の過疎化が急進し、医療にも変化が求められています。在学生の皆さんが、大学で大きな視点から看護を学び、日本看護・医療の開拓者となるのを応援しています。



プロフィール 2004年長野県看護大学卒業後、虎の門病院 脳外科に勤務。東京にて小児専門クリニックに勤務後、2008年にアメリカ、サンフランシスコに移住。カリフォルニア州サンフランシスコ大学、小児病院(UCSF Benioff Children's Hospital)の急性内外科病棟にアシスタントナースとして就職。2010年カリフォルニア州看護師試験に合格後、同病棟にて正看護師(RN)として勤務中。

フォトがんどだい（平成24年6月～11月）

6月1日

平成24年度
認定看護師教育課程開講



6月16～17日

日本赤十字看護学会
第13回学術集会開催



6月17日

ふれあい花壇の定植



7月5日

NHKラジオ第1
「ここはふるさと旅するラジオ」
公開生放送出演



8月4日

オープンキャンパス開催



8月31～9月1日

高等教育コンソーシアム信州主催
第4回ピアメンター育成キャンプ参加



9月15～16日

日本ルーラルナース学会
第7回学術集会開催



9月23日

平成24年度第1回公開講座
「『がん罹患』のショックを家族で
支え合い、乗り越えるために」
開催



9月28日

キャリアガイダンス開催



看護実践国際研究センター看護地域貢献研究部門
看護職者の教育・支援プロジェクト講習会開催

9月22日 ▶

「自分と仲間の安全と
健康を守る職業感染対策」

◀ 9月29日

「抗がん剤による職業性曝露から
自分を守るための知識と予防策」





見藤隆子先生ご逝去

本学初代学長である見藤隆子先生が昨年11月20日にご逝去されました。教職員一同、謹んで哀悼の意を表します。



瑞宝中綬章を受章された
見藤先生（平成20年）

本学名誉教授アン・デービス先生からの追悼文

I first met Mitoh sensei at the ICN conference in Madrid, Spain where we discussed my coming for two years to teach in Nagano. I had such a good time working with her and others that I stayed for six and half years instead of two. One major reason I stayed so long was Takako Mitoh. She listened to my ideas and on several occasions we developed something new for NCN. We made a good team.

She was the kind of leader I like and work best with—one who does not micro-manage. She was at first my boss and then a good colleague and finally a good friend.

We attended the Kabuki together in November 2011 and essentially said good-bye then. That was difficult. I shall miss Mitoh sensei.

Anne J. Davis



「見藤先生からいただいたメッセージ」

私にとって、見藤先生との出会いは千葉大学看護学部看護教育学講座の先生が最初です。

修士課程に在学していた当時（1985年頃）のことです。それまで、看護学部の学部長は1975年の開学時から医師の先生が就いていましたが、看護職として初めて学部長になられたのが見藤先生でした。「医師の学部長から看護職の学部長へ」と変化を起こすために、看護職の先生方が力を合わせている様子が大学院生だった自分にも伝わるがありました。この出来事以外にも、4年制大学での看護教育とはどうあったらよいか考え、また、組織のポジションを獲得していく姿に触れる機会がありました。国立4年制大学の中に初めてできた看護学部であり、荒野を切り開いて道をつくる御苦労はいかばかりであったかと思えます。

時は流れて、見藤先生は平成7年長野県看護大学の初代学長となられ、私は地域看護学講座（当時）の教員に採用していただきました。かつて教わった先生と一緒に働くというのは、不思議な感じでした。特に見藤先生の前では、学生にもどるような状況でしたが、食堂で一緒した時には、満面の笑顔で旅行や料理のことなどとても楽しそうに話して下さいました。

大学院生の時の経験があるため、私は“看護大学の学長は看護職が就く”ということに疑問をもたずにいました。ある時、県内の看護職の方から“看大ができる時、学長に見藤先生が就くと聞いてとてもうれしかった。看護職が就いて、自分達が認められたようだった。”と開学当時の思いを聞くことがあり、ハッとさせられました。組織のリーダーとして看護職が就くことの影響力を感じた経験です。

見藤先生の言葉で印象に残っているのは、「看護職はもっと高い給料をもらっていいはずですよ」ということ。これは、単に給料の金額が安いことをけしからんと言っているのではなく、“看護の価値はもっと高く評価されるべき”ということだと私は理解しています。それを実現させるために、大学だけでなく看護協会や看護連盟でもリーダーシップをとられたのだと思います。

見藤先生からいただいたメッセージは……

“看護職としての誇りをもって進みなさい。”そして、“人生を楽しみなさい。”

安らかに眠りになられますようお祈り申し上げます。

地域・在宅看護学分野教授 安田貴恵子





平成24年度 長野県看護大学 第2回公開講座

ゴリラから見た人間の家族と子育て

講師

・ 京都大学大学院理学研究科 山極寿一教授

期日

・ 平成25年2月2日(土)

時間

・ 15:00～16:30(受付開始14:30)

会場

・ 長野県看護大学 大講義室 (教育研究棟 3階)



- 対象：どなたでもご参加いただけます(参加費無料)。
- 定員：200人
- 申込方法：葉書、電話、FAX、電子メールにて、下記までお申込み下さい。葉書、FAX、電子メールの場合は、お名前、ご住所、お電話番号をお書き下さい。
- 申込・問い合わせ先：〒399-4117 駒ヶ根市赤穂1694番地 長野県看護大学 事務局総務課
TEL 0265-81-5100 FAX 0265-81-1256
E-Mail somuka@nagano-nurs.ac.jp
- 主催：長野県看護大学
- 後援：長野県教育委員会

平成24年度長野県看護大学研究集会

本年度も3月に長野県看護大学研究集会を開催致します。
今回は、下伊那赤十字訪問看護ステーションや飯田市立病院の看護職者の方々が、本学教員とともに取り組まれている研究の成果を発表される予定です。

詳細は大学ホームページ
(<http://www.nagano-nurs.ac.jp/>) に掲載
致しますので、どうぞご確認下さい。



日時：3月21日(木) 9:00～15:30
会場：長野県看護大学大講義室(教育研究棟3階)

